



ハイタクフォーラム 3.8 総決起集会 開催 — 「ライドシェア新法」絶対阻止！ —

ハイタクフォーラム(全自交労連・交通労連ハイタク部会・私鉄総連ハイタク協議会)主催の『3.8 総決起集会』が3月8日(金)、東京都内の全電通会館で開催された。

集会には、3産別の仲間らに加え、労働界、政党関係、ハイタク事業者、消費者団体の関係者、約300名が結集し「ライドシェア新法」の絶対阻止を訴えた。

冒頭、溝上 泰央 代表幹事(全自交労連中央執行委員長)は、「一般ドライバーを使い捨てにし、雇用を破壊し、我々が築いてきた安全・安心をも破壊し、地域公共交通が破壊されてしまうことは明らかだ。」と政府方針を厳しく指摘し、「ライドシェアとの闘いに、絶対に、絶対に、絶対に勝ち抜かなくてはならない。」と力強く決意を述べた。

集会には来賓として芳野 友子 連合会長、住野 敏彦 交運労協議長、浦田 誠 ITF 政策部長ら労働団体関係者と、タクシー政策議員連盟から小宮山 泰子 幹事長、立憲民主党から逢坂 誠二 代表代行、国民民主党からは古川 元久 国対委員長ら交通政策で関係する多くの政界関係者も臨席し、政府の安易なライドシェア導入議論を批判し、タクシー運転者の待遇改善こそが地域公共交通を守るための必要な手段だと挨拶で述べた。事業者団体からは坂本 克己 最高顧問も臨席した。

また、京都大学大学院 藤井 聡 教授も集会に駆けつけて頂き「岸田政権が推し進めるライドシェア解禁論の愚かさ」についてスピーチし、乗客の安全を守るために導入されている規制を見直すのであれば、運転者の確保のために必要な労働条件の改善と利用者の安全を維持することを前提に丁寧な議論が必要であると説明された。

その他に、利用者からみたライドシェアの問題について主婦連合会 山根 香織 常任理事と被災地で活躍する公共交通としてのタクシーと題し、全自交石川ハイタク連合会の市野 晃司 委員長から通常時のみならず、災害時においても地域の移動の足として利用者の安全を確保しながら活躍するタクシーの必要性を報告した。

集会アピールでは、「局所的なタクシー不足は業界労使の努力や、ハイタク労働者の賃金・労働条件の改善で解消できる。ライドシェア新法は絶対認めない！」と確認し、溝上 代表幹事による“団結がんばろう”で締めくくった。